

平成22年度 第2回道徳教育について考える会 協議概要

日時：平成22年10月27日（水）

13：10～16：45

場所：岡山市立津島小学校

第2回「道徳教育について考える会」は、次の2点をねらいとし、岡山市立津島小学校の道徳の時間の授業参観及び協議を行った。

- ① 「道徳教育について考える会」の委員は、「道徳教育実践研究事業」の推進校の取組を理解するとともに、推進校への支援を行う。また、それを、提言に向けての今後の協議に生かす。
- ② 「道徳教育実践研究事業」の推進校は、互いの取組について理解し、今後の取組の改善につなげる。

協議1 「津島小学校の研究概要・公開授業に係る協議」

- (1) 津島小学校の研究概要説明・公開授業（内容については、開催要項参照）
- (2) 研究及び公開授業に係る協議

- ・ 子どもたちが、白熱した議論を展開した。普段の学級経営の成果であろう。「津島を愛すること」と「郷土を愛すること」の両方を議論したが、どちらか一つにしてもよかったのではないかと。「愛するとはどういうことか」の発問で、議論が深まった。時間厳守で授業を終了したことはよかった。
- ・ 子どもが幼いほど、家庭の担う役割は大きく、家庭での道徳性の芽生えは大きい。総合的な学習の時間の取組である「my プロジェクト」において、家庭はどのように関わっているのか。津島を親子で歩いてみるとか、郷土について、家庭でも話してみるとかの取組もできると思う。「郷土を愛する」だけではなく、「郷土に愛されている」「郷土に必要とされている」という所まで高まればよかった。
- ・ 子どもたちは、保護者と学区を歩いて回ったり、近辺の山の様子を調べたりして、ゴミ拾いが大切と感じている。煙草のごみが多いことに気付いたが、これは、大人の責任であるので、どうやって子どもから社会に伝えていくかが、授業者としては課題と感じている。今後も総合的な学習の時間や教科の学習においても道徳教育を意識しながら進めたい。
- ・ グループ協議において、「自分たちが愛されていないと、人のことを愛せない」という発言があった。「小さいことでも、できることからやっつけよう」という発言につながっていた。
- ・ 校長で学校経営にあたっているが、夏休み前に指導案を書いて道徳の授業をしてみた。本日の授業では、担任と子どもたちの人間関係ができているのを感じた。津島を、そして、我々の学校をどうしていけばよいのかという視点で、子どもたちに考えさせたい。
- ・ 子どもたちの発言を丁寧に取り上げていた。また、それを、子どもにどのように返していくのか、その場その場で考えながら進めるすばらしい授業であった。この教材で「郷土を愛する」ことを考え、それから「津島を愛すること」を考えるとというように、2段階にしてもよかった。
- ・ 授業の最初に郷土という言葉が授業者から出していなかったため、最後でより身近なことを取り上げる方が子どもたちにわかりやすいと思って、本日のような授業の流れにしたが、参観され

た方がそう思われるのなら、子どもたちにとっても2段階の方がよかったのかもしれない。

- ・ 子どもの発言の中に、「津島は自然が豊かなのできれいにしている」というものがあった。それが郷土愛なのか。子どもたちが協議の中で、自分たちのこととして考えていた。

○ 指導講評

(道徳性の形成に係ること)

- ・ 授業の最後に書かせた振り返りの作文を分析して、児童の変容を見ないと、道徳の授業の意味は判断できないのではないかな。
- ・ 「愛する」「好き」という言葉の豊かさを学んだのではないかな。「愛する」とは、人を愛するだけではなく、郷土を愛するということもあり、それに加えて、自分たちができることをするということもある。「愛する」ということの価値を認識し、その語の豊かさを学んだと思われる。
- ・ 人を育てることが、地域を幸せにするという価値をもつ教材である。それをどこまで子どもたちが自分の中に取り込むことができているか分析してほしい。ごみを拾うことが、今の津島をきれいにすることだけでなく、未来の自然を守ることにつながるという認識が深まれば、「myプロジェクト」の意味づけがもっとできる。津島小で津島を愛すると、こんな大人になっていくんだという意識をもたせることで、津島を愛することにつながるのではないかな。また、その意識が高まれば価値認識を深めることになる。

(授業の構成について)

- ・ 資料を読んだ後の話し合いの際、「どうでしたか。」という、何を考えたらよいかわからないことになりかねない発問を、本日の授業では、あえてしていた。子どもたちの自由な発言の中から、教師として取り上げたいことを拾い、対話的に授業を展開する、よい流れの授業であった。教師が構えて、「これについて考えて」と、考えることを強要するのではなく、子どもが考えたことを考えさせているのがすばらしい。
- ・ 「愛する」の意味をどう表現すればよいのか子どもは困っていた。教師はつい答えを言いたくなったり、価値を語りたくなったりする。答えを教えるということは、価値を押しつけていることである。子どもが自分の中で価値認識を社会的に構成するために、価値を押しつけることなく、価値に気付かせることができた、よい授業であった。

協議2 「道徳教育実践研究事業に係る協議」

- (1) 2年目の推進校からの報告(内容については、開催要項参照)
- (2) 報告に関する質疑応答・意見交換

① 津山市立鶴山幼稚園の取組報告について

Q: 教諭の道徳性、感性をどのように磨いたか。

A: 教諭の言動が子どもに与える影響は大きいので、教諭が互いの言動を振り返りながら研修を深めている。

Q: 幼稚園児は自分が考えていることをうまく表現できないと思うが、子どもたちが自分たちの言動を振り返るようになったというのは、何をもって評価しているのか?

A: 遊びの中でのうれしかったことや、困ったこと、その時の気持ちなどを尋ね、子どもたち

とのやりとりの中で、自分たちの言動を振り返らせている。その言動によって評価している。

Q： 子どもが幼少時というのは、母親が孤独を感じていたり、子どもに関わる時間的、経済的な余裕がなかったりする時期でもある。自分たちの悩みをどこかで聞いてもらったり、母親同士・父親同士のつながりができたりする場を園として働きかけてもっているか。

A： クラス懇談を設けたり、園児の迎えの時に、保護者に子どもの成長を伝えたり、保護者からの話を聞いたりしている。また、その時、保護者同士で話ができている。異年齢交流をしているので、そこで出合った子どもの保護者同士のつながりができ、互いの係わりが広がってきている。父親が懇談に出たり、子どもの迎えにきたりしている家庭もある。家族ふれあい参観日を設けており、父親同士が顔なじみになったところから、互いの交流につながっている。

② 岡山市立後楽館中学校の取組報告について

Q： 「分野・領域関連表」を効果的に活用した指導ができたとのことだが、その根拠は何か。

A： アンケートをしたわけではないが、子どもの反応などについて、教員が互いに情報交換しており、教員の実感として、そう捉えている。

- ・ 職員室で、平素から道德のことが話題になるのはよい。高校で道德教育が進んでいるかどうかのめやすは、教員が道德について話題にするかどうかである。中高一貫校で、高校においても道德が話題になっているのは、かなり進んでいるということだと思う。研究指定が終わってからも、研究・実践を深めてほしい。
- ・ 「分野・領域関連表」を活用しての指導の効果について、客観的なデータを残しておくとうい。

③ 岡山県立岡山東商業高等学校について

Q： 東商デパートを中心とした取組について、道德教育の面からの課題は何か。

A： 客が来ているのに、生徒同士が話をしていることや、生徒の言葉遣いについて、客から御指摘を受けた。接客の基本として、相手への思いやりが大切である。

Q： 課題解決のために、学校として取り組んでいることは何か。

A： 東商デパートに関する自分の課題を目標シートに記入させ、それに対する解決策を考えさせている。生徒は、1年次から3年次まで3年間継続して東商デパートに取り組んでいるので、課題や解決法については、次年度に受け継がれる。